

# News release

2025年1月20日

## 第7回日本医療研究開発大賞における内閣総理大臣賞受賞のお知らせ

協和キリン株式会社（本社：東京、以下「協和キリン」）は、東京理科大学 松島 綱治教授、近畿大学 義江 修名誉教授とともに、「ケモカインの発見に基づくT細胞リンパ腫治療薬の開発」により、第7回日本医療研究開発大賞において内閣総理大臣賞を受賞しましたので、お知らせいたします。表彰式は2025年1月17日に首相官邸にて開催され、賞は石破茂首相より授与されました。

日本医療研究開発大賞は、我が国のみならず世界の医療の発展に向けて、医療分野の研究開発の推進に多大な貢献をした事例に関して功績を称えるものです。国民の関心と理解を深めるとともに、研究者等のインセンティブを高めることを目的として平成29年度より行われています。その中でも内閣総理大臣賞は、極めて顕著な功績が認められる事例1件に対して授与されます。

松島教授は、免疫・炎症反応において生体防御を担う白血球の特定組織への移動を制御するタンパク質ケモカインのプロトタイプを発見しました。さらに義江名誉教授との共同研究により、CCケモカイン受容体4（CCR4）が成人T細胞白血病リンパ腫に高発現することを見出し、新規成人T細胞白血病リンパ腫治療薬として抗CCR4抗体モガムリズマブの開発の礎を築きました。協和キリンは、抗体依存性細胞傷害活性を高める自社独自の「POTELLIGENT<sup>®</sup>（ポテリジェント）」技術を搭載したモガムリズマブを作製し、名古屋大学 上田龍三特任教授（当時名古屋市立大学）らとともに成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした国内臨床試験を行い、日本発・日本初のがん領域での抗体医薬品の開発に成功しました。その後モガムリズマブは、T細胞リンパ腫治療薬として58の国と地域で患者さんの予後改善に貢献しています（2024年9月末時点）。

協和キリン 代表取締役社長 CEO 宮本昌志は以下のように述べています。「このたびの受賞は、松島教授と義江名誉教授による画期的な発見に加えて、T細胞リンパ腫患者さんのニーズの理解のもと、疾患サイエンスと創薬テクノロジーの組み合わせにより創薬を推進した結果であり、まさに協和キリンが目指す研究開発の在り方が評価されたことを光栄に思います。これからも日本発のグローバル・スペシャリティファーマとして、革新的な創薬技術を駆使して Life-changing な価値を継続的に創出し、世界中の人々にお届けすることを目指します。」



### モガムリズマブとは

モガムリズマブは CCR4 を標的とするヒト化モノクローナル抗体です。CCR4 は特定の血液がん細胞に頻繁に発現しています。モガムリズマブは POTELLIGENT® 技術を用いて創製されました。日本では、2012 年 3 月より、再発性もしくは難治性 CCR4 陽性成人 T 細胞白血病リンパ腫治療薬として世界で初めて販売承認されています。その後、2014 年 12 月に適応症が「CCR4 陽性の成人 T 細胞白血病リンパ腫」に拡大されました。また、ATL での高い有効性を勘案し、CCR4 陽性末梢性 T 細胞リンパ腫および皮膚 T 細胞リンパ腫における開発も実施し、「再発又は難治性の CCR4 陽性の末梢性 T 細胞リンパ腫」及び「再発又は難治性の皮膚 T 細胞性リンパ腫（2018 年に一部変更）」の適応も取得しました。さらに、日本のみならずグローバルでの開発も開始し、米国では 2018 年 8 月、欧州では 2018 年 11 月に、全身治療歴を有する菌状息肉腫およびセザリー症候群（皮膚 T 細胞リンパ腫の主な病型）の治療薬として販売承認を取得しています。